

長谷川仁さんが読んでくださった私のエッセーは私の連載第1回でした。とてつもなく緊張しつつ、何度も何度も書き直し、拙いながらもやっと書き上げることが出来た愛おしい800文字を読んでくださり、紙面というアナログな場所に出逢えたロマンティックさに夢が広がります。

新聞は正確な情報を伝えてくれるもので、私にとっては、まさに大切な出逢いの場でもあります。私のエッセーを遠くに住む方が読んでくださる喜びもありますが、読者として私が新聞を読む時間も大好きです。紙面を開けばさまざまな意図しない物事が目に飛び込んできて、それを読む読まないもその日の気分次第、人との出逢いと同様、記事との出会いも一期一会。「今日はこの記事を、このコラムをエッセーを」と読むのは、ちょっとした冒険だったりもして。

私がどんどん広がっていく。また夢が広がってしまいましたね！